

Differences in the expression of epithelial-mesenchymal transition related molecules between primary tumors and pulmonary metastatic tumors in colorectal cancer

高祖, 英典

<https://hdl.handle.net/2324/1398448>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名：高祖 英典

論文題名：Differences in the expression of epithelial–mesenchymal transition related molecules between primary tumors and pulmonary metastatic tumors in colorectal cancer

(結腸直腸癌原発巣と肺転移巣における上皮 - 間葉転換関連分子の発現の差)

区 分：乙

論 文 内 容 の 要 旨

目的：上皮-間葉転換機構(epithelial-mesenchymal transition: EMT)は癌の転移における重要な要素のひとつである。本研究において、我々は結腸直腸癌原発巣ならびに肺転移巣における EMT 関連分子の発現を免疫組織学的に検討しその発現様式を解析した。

方法：結腸直腸癌の原発巣と肺転移巣に対してともに外科的切除が施行された 10 症例の切除標本を用いた。EMT 関連分子の発現は免疫組織化学染色を用いて検討した。

結果：原発巣 10 症例の検討では、E-cadherin ならびに β -catenin の発現が 9 症例において保持されていた。また、肺転移巣 10 症例 15 病巣においては E-cadherin が 10 病巣、 β -catenin が 12 病巣においてその発現が保持されていた。また E-cadherin 転写制御因子の発現に関しては、原発巣では Twist、Sip1、Snail、Slug がそれぞれ 10 症例、9 症例、4 症例、3 症例において発現を認めた。一方転移巣では Twist、Sip1、Snail は 10 症例 15 病巣のすべてにおいて発現を認めなかった。

結論：結腸直腸癌の肺転移巣においては、EMT 関連転写制御因子の発現が原発巣と比較して減弱もしくは欠失していた。本結果は腫瘍細胞の転移巣における生着に関して、EMT 関連転写制御因子の発現状態が重要な役割を果たしている可能性を示唆する。